

経済・社会・環境の好循環が生まれる 持続可能な「めがねのまちさばえ」を目指して

●SDGs未来都市 めがねのまちさばえ

鯖江市は1955年の市制施行以来人口が増え続けていますが、若者の県外への人口流出は続いており、近い将来、人口減少時代が来ると推計されています。今後、本市が将来にわたって成長力を確保し、持続可能なまちづくりを進めるには、女性も若者も高齢者も、そして障がい者も“誰一人取り残さない”地域社会の実現を目指すことが必要と考え、2015年9月国連サミットにおいて全会一致で採択された「持続可能な開発目標SDGs」の理念に賛同し、目標達成にむけて取り組むことになりました。

SDGsをより多くの人々に知ってもらうために作成したコンセプトメガネを活用。コンセプトメガネとは、SDGs17の目標を左右各8目標に分け、それらを目標5の「ジェンダー平等実現」のブリッジでつなぐもの。一つのレンズで世界の動きを捉え、もう一つのレンズで地域を考え行動する、メイドインサバエ「グローバル」です。

めがねのまちさばえ
SDGs推進シンボルマーク

鯖江市はSDGsの達成に向けて、特に目標5の「ジェンダー平等の実現」に重点を置き、女性の活躍を軸に持続可能な地域の振興を目指しています。

Think globally! Act locally!
“世界的視野で、地域で行動する”



「眼育(めいく)」

めがねのまちだからこそ、目の健康づくりに取り組んでいます。特に幼児期の検査体制を強化して、弱視などの早期発見により子供たちの学力向上やスポーツでの活躍につなげ、夢を叶える一助になる取組を展開しています。



ITのまちづくり

2020年度から小学校で必修化されるプログラミング教育に、鯖江市では2018年度から市内の全小中学校で取り組んでいます。また、行政と市民との情報共有により、市民と協働によるまちづくりを目指すためオープンデータに取り組んでいます。



女性が輝くまちづくり

女子高校生たちが柔軟な視点や発想で、まちを楽しく面白くしていこうと2014年から独自のまちづくりをしています。ゴミ拾い企画「ピカピカプラン」や「JK課オリジナルスイーツ開発」など多数展開中。おばちゃんたちの「鯖江市OC課」も発足しました。



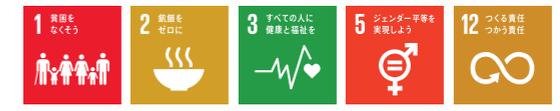
働き方改革

若者や女性が「住みたい」「働きたい」と思えるまちづくりの実現を目指しています。「ITのまちさばえ」や「女性が輝くまちさばえ」の推進に向けサテライトオフィスの誘致を進めており、既に市中心部にオフィスが進出しています。



環境市民の育成

環境教育支援センターを拠点に、地球温暖化防止などの環境講座や自然に関する体験活動事業を行っています。また、学校・地域・NPO・行政等が連携して自らが環境に配慮して行動する「環境市民」の育成に努めています。



ゆるい食堂

一般的な子ども食堂より「ゆるい」形態の「ゆるい食堂」の主旨に賛同した市民有志が、持ち寄りや、協賛いただいたりした食材でごちそうを作り振る舞います。参加者に制約はなく、皆で食の楽しさを共有することを目的としています。